

伝統文化の広瀬和紙を次の世代へ 安来市商工会 ～ 師匠と弟子の第三者承継～ 経営支援事例



広瀬和紙 紙季漉
代表 大東 由季
住所 安来市広瀬町
布部1704-2
電話 0854-26-4816
営業 10時～16時（不定休）



「広瀬和紙」は、江戸時代に広瀬藩が奨励したのが始まりとされる安来市唯一の手漉き和紙です。島根県ふるさと伝統工芸品に指定されており、現代では封筒や便箋、障子紙、ちぎり絵用として人気です。職人が先代の長島勲さんだけとなり廃業を検討していたところ、浜田市の事業所で和紙制作に携わっていた大東由季さんが弟子入りを志願。約3年間の修行期間を経て、広瀬和紙を承継されました。

取り組みのきっかけはなんですか？

事業承継は平成30年に弟子入りする時に決めていました。出身は鳥取県境港市、父は建築士、祖父は大工の「ものづくり一家」に育ち、私は和紙づくりの道を選びました。学校で基本的な技術を学び職に就きましたが、ひとりでのスキルの研鑽に限界を感じる日々。行き詰っていた時に広瀬和紙を知り工房を訪ねました。長島さんの技術とものづくりへの姿勢に感動し、初対面でしたが弟子入りをお願いしました。「教えるからには継いでくれるか？」と聞かれたので「やります！」と即答、これが出発点です。

取り組みの成果・効果を教えてください！

しまね信用金庫と日本公庫から協調融資をいただきました。補助金も採択となり無事工房が開設できました。また、事業計画書を作る中で「仕入先はどこ？原料の相場や必要量は？」など様々な疑問が浮かび、師匠と相談する時間が増えました。師匠の行っていた事業の詳細を知り、自分が今後行う事業をしっかりとイメージできたことは承継を進める中で大きな学びとなりました。

後継者 大東さん

長島さんの技術や想いを引継ぎ、「広瀬和紙」を次の世代に残すことができました。事業を受け継ぎ創業したばかりですので、引き続いての支援をお願いします。



伊谷圭司経営指導員

主体的に事業計画書の作成に取り組みされており、これが経営の継承に繋がったと思います。次は事業が軌道に乗るように販路開拓を支援していきます！